

図書館再整備検討委員会

【第4回会議】

とき 令和元年8月26日（月）

ところ 本庁4階 庁議室

－ 目 次 －

1	高校生アンケートの結果概要について	P 3
2	行政視察の結果について	P 5
3	第 1 回及び 2 回検討委員会の振り返り	P 11
4	新しい図書館本館のコンセプト	P 15
5	新しい図書館本館の適地選定	P 21
6	今後のスケジュールについて	P 27

1. 高校生アンケートの結果概要について

(1) 調査の実施概要

対象者	福島高校・橘高校・福島東高校 100人 1年生から3年生（図書委員会委員、図書部員）
回答者	99人（回答率 99.0%）
調査期間	令和元年7月1日～令和元年7月19日

(2) 高校生へのアンケート調査 (まとめ)

- | | | | |
|-------------------------|---------|------------------|----------------|
| 1) 図書館本館の認知度 | 57% | | |
| 2) 図書館本館の利用 | 25% | 分館はともに、11% | |
| 3) 図書館本館の滞在時間 | 3時間まで | 本の借用・返却、読書
勉強 | 2時間未満
1～3時間 |
| 4) 市立図書館を利用しない理由 | | | |
| 回答者の75%～90%は | 1位 | 本は自分で買う | |
| | 2位 | 部活や勉強などで忙しい | |
| | 3位 | 高校の学校図書館から本を借りる | |
| 5) 勉強に利用する施設
(図書館以外) | アオウゼ | 57% | |
| | 高校 | 67% | |
| 6) 勉強で利用する理由 | 共通する理由は | 高校からの帰宅途中にある | |



2. 行政視察の結果について

(1) 市立米沢図書館 (6月1日現在人口 82,219人)

特徴 中心市街地の活性化を目的として整備、利用者は多いものの
施設のみの利用が多い。

I : 立地状況と基本的な整備の考え方

- 米沢駅から1500mの中心市街地
- 近隣に商店や老舗百貨店
- まちなかの賑わい創出として整備

II : 図書館への利用手段

- バス停は近くにあるが、バスによる利用頻度は低く
自家用車での利用が多い。
学習室の主な利用者は学生で、自転車が多い。
- 図書館のみの利用者が多い。



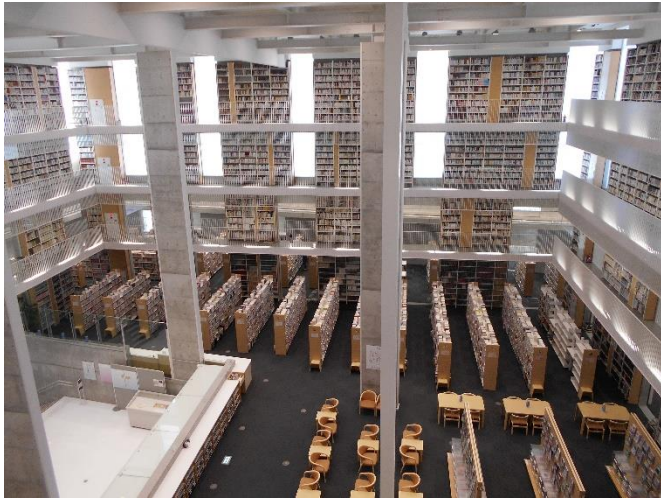
Ⅲ：駐車場

- 市営立体駐車場（153台）（図書館等利用者：3時間無料）
周辺に民間駐車場はほとんどない。
- 駐車場は、道路を挟み同一敷地内ではないことから利用者からは不便の声
- 図書館と隣接する市民文化会館の利用者が中心事業が重なると駐車場が満車となってしまう。

Ⅳ：その他

- 図書館は、2階部分だがワンフロアで開架と学習スペースを配置
- 建設から3年が経過し、図書館利用者は年間32万人台から30万人台で推移





(2) 東根市図書館 (6月1日現在人口47,798人)

特徴 自家用車での移動により、買い物から公共施設の利用といった日常生活を便利に過ごす環境が整っている。

I : 立地状況と基本的な整備の考え方

- さくらんぼ東根駅から750mの中心市街地
- 平成5年から土地区画整理事業により大規模店舗や宅地が先行して開発され、その後計画当初より確保していた都市公園を一部活用し文教施設を集約隣には、公立の中高一貫校を誘致
- 商業施設、工業団地、住宅、文教施設がそれぞれの区域に集約され、それぞれの区域が、比較的近距離の範囲で配置されている。



Ⅱ：図書館への利用手段

- バス停は近くにあるが、バスによる利用頻度は低く
自家用車での利用が多い。
- 学習室の主な利用者は、隣接する中高一貫校や山形市
へ通学する学生で、徒歩が多い。



Ⅲ：駐車場

- 施設に無料駐車場（150台）を併設
- 周辺の郊外型店舗には、それぞれ駐車場が併設

Ⅳ：その他

- 平屋構造のワンフロアに開架と学習のスペースを配置
- 併設の飲食店は、独自に営業努力（夜間は、酒類提供）
- 建設から3年が経過し、図書館利用者は年間約27万人





3. 第1回及び2回検討委員会の振り返り

(機能や使いやすさ)

- 賑わいも必要だが、そればかり追い求めると中途半端な施設となる。賑わいに過度に傾斜せず、従来の図書館機能を中心とした施設が望ましい。
- 将来の図書館利用を考えれば、子どもたちや子育て世代が利用しやすい、誰にでも開かれた図書館を目指すことが重要
- 利用することが想定される方の、いくつかのシチュエーション（利用形態）を考えて、検討したほうがよい。
- 子どもを連れて利用する際に、休憩場所があったらいいと思う。
- 高齢化社会へ対応する機能強化を検討してほしい。

- 図書館の利用のついでに、子育て世代が弁当持参で隣の公園で遊ぶなどといった、レジャー感覚で利用できるイメージだと堅苦しくない。
- 多くの市民の居場所（サードプレイス）を作ってほしい。特に子どもたちの居場所としての図書館の再整備を検討してほしい。
- 開架スペースが静かすぎる、場所が分かりにくい、敷居が高いという印象が今までの図書館にはあったと思う。
- 市内の図書施設の連携やネットワークの議論も、再整備のための機能としては重要ではないか。
- 学習スペースが充実すると、学生も利用しやすくなると思う。

(立地)

- 交通の便利な場所で、ある程度の駐車場を確保できる場所が良い。
- 高齢者や親子連れが利用しやすい場所、できればバス停がほしい。
- 交通アクセスという点では、バス停が近いことも重要だが、自家用車を利用する市民のことも考え、駐車場を広く整備することも重要
- 中心市街地で小学校の統廃合があれば、廃止する跡地も候補地となるのではないか。
- 図書館単体だけが立派でもダメで、図書館が立地することにより周辺の施設とどう結びつくかという視点も大事

(統合)

- 中心市街地にある 3 つの図書館本館、分館の役割分担の整理が必要であり、場合によっては、整理統合も必要ではないか。
- 30 年先、40 年先の人口動態も考えた整備が必要ではないか。負の遺産とならないようにすべき。

4. 新しい図書館本館のコンセプト

4-1 基本機能と付加機能

1) 基本型

情報の収集・提供・保存



①書架スペース（開架・閉架）

②バックヤード機能
（配本・移動図書館など）

③運搬の動線
（配本・移動図書館など）

④駐車場（同一敷地内に併設）

主な必須機能

2) 学習環境充実型

中高生から大人向けの自習機能

ゆとりや落ち着きのある静かな環境



⑤広い学習スペース 広い机、席数

3) 賑わい創出重視型

図書館とは、直結しない機能との共存 隣接、複合化

例：カフェ、本屋など商業機能（収益部門）



⑥図書館以外の集客機能

+ ?

4-2 基本機能と付加機能の検討

1) 基本型

基本機能の使いやすさは必須
利用者にとって 運営面から



- ① ゆとりのある開架スペースではない。
例：閲覧、書棚の間隔や高さ
- ② バリアフリーが、十分ではない。
例：トイレ、エレベーター
- ③ 同一敷地内での駐車場は確保

2) 学習環境充実型

今後の利用需要や近隣の類似機能の状況を見極めながら、適正な規模での配置



- ① 現状は、会議室（未使用時）を開放し、固定化してはいない。
- ② 市民アンケートからの要望
- ③ 自習は、図書館でなくともよいが、調べる場の提供は、図書館に必要
- ④ 機能が、他の施設と重複

3) 賑わい創出重視型

賑わい創出に向けた民間事業者との連携が必要



- ① 集客能力の高い施設との隣接・合築による賑わい創出の相乗効果が期待できる。
- ② 民間活力との連携が重要であり、図書館単体での賑わい創出には限界がある。

4-3 新しい図書館本館のコンセプト（案）

- (1) 基本的に備えるべき図書館の機能を中心に整備する。
- (2) 「学習スペース」は、必要最小限の規模を整備する。
なお、空間の効率的かつ多様な活用の観点から、可変的な運営についても検討する。
- (3) 「カフェ」などのくつろぎ・集客機能は、図書館が有する集客力と民間活力との連携により活かされることから、その有効性の観点で検討する。

4-4 新しい図書館本館のコンセプト（まとめ）

I 図書館本館の機能コンセプト

基本型 + 使いやすさ



①書架スペース（開架・閉架）

②バックヤード機能（配本・移動図書館など）

③運搬の動線（配本・移動図書館など）

④駐車場、駐輪場（同一敷地内・併設）

⑤学習スペース



II 新しい図書館本館再整備にあたっての基本的な考え方

1) 本と市民をつなぎ気軽に親しむことができる図書館本館

2) 本市図書サービス網の要となる効率的な図書館本館



市民アンケート

経営的視点

4-5 新しい図書館本館 再整備にあたっての 基本的な考え方

1) 本と市民をつなぎ気軽に親しむことができる図書館本館

①館内が明るく開放的で親しみのある施設

- 子どもたちも楽しく過ごせる空間
- 賑わいから距離を置き、静かに本と向き合える落ち着いた空間
- 中高生が勉強に励み、友人と会話を楽しめる空間
- 市民がそれぞれ自由に時間を過ごせる空間
- 居心地の良い場所（サードプレイス）となる憩いの空間

②来館しやすく安全で利用しやすい施設

- 赤ちゃんから障がい者、高齢者に配慮した環境整備
- 自家用車・公共交通機関等の交通手段で来客しやすい環境整備
- 防災に優れ、安全性に高い環境整備

【 アンケートからのキーワード 】

- 利用目的
本の借用・返却、閲覧、調べ物
- 重視する蔵書の種別
一般書、専門書、児童書、
新聞・雑誌、郷土資料
- 図書館で重視する機能
開架の充実、カフェ、学習スペース、
インターネット接続環境、
講座・催し物・読み聞かせ、
自由に過ごせる
- 本館への交通機関
自家用車、自転車
- 新図書館の設置場所要件
公共交通機関、駐車・駐輪場

2) 本市図書サービス網の要となる効率的な図書館本館

① 将来と本市図書サービスの特徴（分散型）を踏まえた本館機能の検討

- 本市図書サービス網・サービス機能の充実
- 学習センター図書室、移動図書館を含めた本館の役割・規模の検討
- 本市図書サービスの特徴を踏まえた最適な本館開架スペースの検討
- 将来の人口構造・情報通信技術と新たなニーズへの対応を見据えた本館機能の検討

② 本館機能の強化に向けた中心市街地図書施設の再編検討

- 立地・利用者、図書サービスのあり方を踏まえた施設の集約化による本館機能の検討
- 図書サービスの充実に向けた効率的な図書施設再配置の検討

【 アンケートからのキーワード 】

- 利用目的
本の借用・返却、閲覧、調べ物
- 重視する蔵書の種別
一般書、専門書、児童書、
新聞・雑誌、郷土資料
- 満足しているサービス
取り寄せ・返却がどの施設でも可能
購入リクエスト、
インターネット予約、
レファレンスサービス
- 図書館で重視する機能
開架の充実、学習スペース

5. 新しい図書館本館の適地選定

5-1 図書館本館の望ましい立地条件

1) 駐車場が十分に確保できる



アンケート結果、利用実態、生活様態などから
自家用車による来館需要が高い

2) 公共交通によるスムーズなアクセス



子ども、障がい者、高齢者など
自家用車を利用しない市民にも
集まりやすい場所

例：バス停が近い

3) 分かりやすい (市外の方にも案内しやすい)



現敷地のように
一方通行で出入口が分かりずらく
ない場所

例：幹線道路沿い

5-2 候補地

図書館本館整備の検討エリア ⇒ 中心市街地

福島駅前周辺エリア

市役所周辺エリア



1) 駅東口地区市街地
再開発事業区域

複合化 コンベンション機能、公会堂、
市民会館（大会議室機能など）

福島駅前交流・集客拠点施設整備基本計画策定委員会

+ 図書館？

2) 本庁西棟用地

複合化 本庁舎西棟（議会・防災機能）、
市民会館（会議室機能など）、
中央学習センター、敬老センター

福島市役所新しい西棟建設市民懇談会

新たな用地の
取得はしない

3) 現在地

現在地での建替え

5-3 候補地の適地検討

1) 駅東口地区市街地 再開発事業区域

複合化 コンベンション機能、公会堂、
市民会館（大会議室機能など）



- ①他館バックアップ機能としての配本運搬の効率的な動線確保が必要（移動図書館も同様）
- ②駐車場が必須だが確保には、継続的な固定経費が伴う。
- ③利便性から低層階が必須だが、民間収益部門と競合

2) 本庁西棟用地

複合化 本庁舎西棟（議会・防災機能）、
市民会館（会議室機能）、
中央学習センター、敬老センター



- ①他館バックアップ機能としての配本運搬の効率的な動線確保が必要（移動図書館も同様）
- ②多機能すぎて、近隣の交通混雑が懸念
- ③他の市民利用機能も含め、駐車場の確保が必要
- ④利便性から低層階が必須だが、防災機能や他の市民利用機能と競合

3) 現在地

現在地での建替え



- ①一方通行に囲まれ、車の出入りが不便
- ②場所がわかりずらく、バス停からは心理的にも距離あり

5-4 候補地の適地検討（まとめ）

No	候補地	駐車場の十分な確保	公共交通とのアクセス	場所が分かりやすい	方針（案）
1	駅東口地区市街地 再開発事業区域	×	○	△ 低層階でない場合	整備には課題が多く、 運営の観点から、用地としては望ましくない。
2	本庁西棟用地	×	○	△ 低層階でない場合	多機能すぎて、 利便性と運営の観点から、用地としては望ましくない。
3	現在地	○	×	×	設置しても、 公共交通とのアクセスや場所の分かりやすさ については、 改善が極めて困難 なことから、 用地としては望ましくない。



5-5 適地の選定について（案）

1) 新たな適地の選択

← 中心市街地で

これまで検討してきた3つの候補地は、適地条件を全て満たしていないことから、中心市街地で条件を満たす新たな用地から選定する。



2) 再編後の公共用地などを軸に市全体の中で、総合調整

← 市民会館ほか

- ①再編が検討されている他の公共施設用地を軸に検討する。
- ②検討されている他の再編計画の実施時期、施設マネジメントの視点※1や財政面からの検討を踏まえ、図書館本館の用地とともに、整備時期を今後、総合調整していく。

- ※1 人口減少が進む中で
- ①次世代への負担
 - ②適正な施設保有量
 - ③効率的な管理運営など

全体の中で総合調整

関連する計画との整合

+

財政面からの検討

||

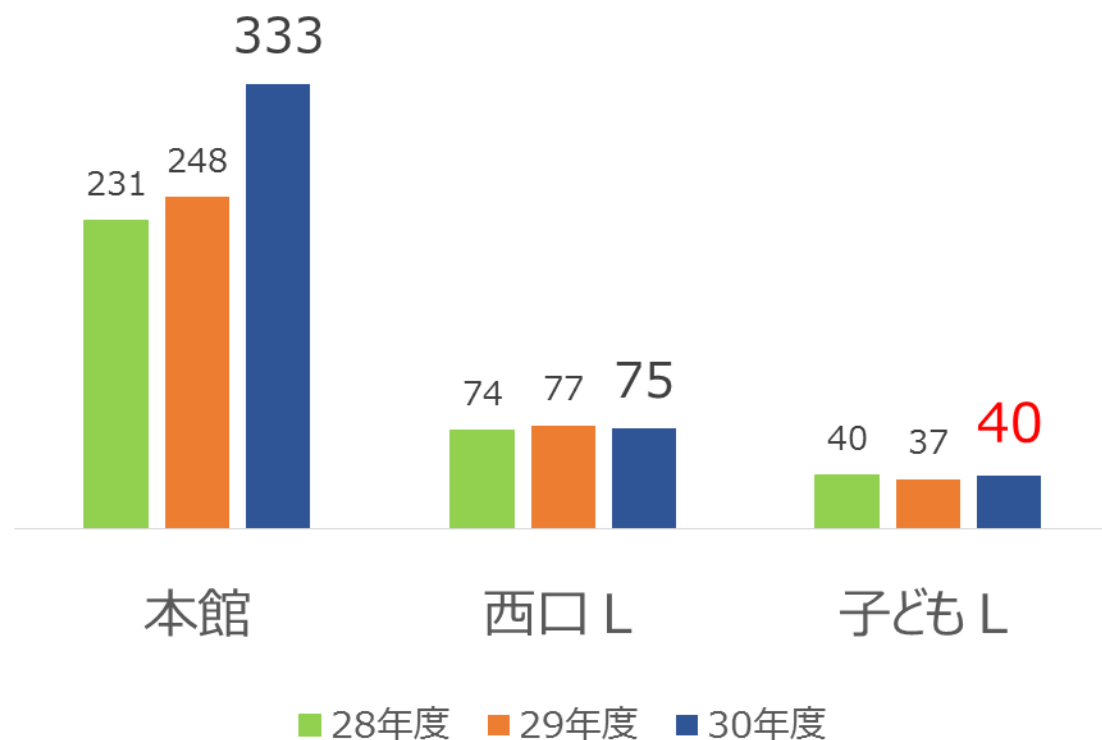
図書館本館の
用地の選定、整備時期



具体的な検討

参考 1日あたり利用者

H30年度



子どもライブラリー 40人

西口ライブラリー 75人

本館の利用者 増

隣接公会堂の休館 (H30年4月～)
⇒駐車場の利用枠増

6. 今後のスケジュールについて

(1) 10月 第5回検討委員会

- ・検討委員会としての中間報告書(案)の取りまとめ

(2) 市へ中間報告

- ・新しい図書館本館のコンセプト
- ・図書館本館再整備にあたっての基本的な考え方
- ・新しい図書館本館の望ましい立地条件
- ・新しい図書館の適地選定